

## 八代小の目指す学校像

- 1 教職員が支え合う学校
- 2 規律と活気が見える学校
- 3 児童の可能性を伸ばす学校



八代小学校  
学校だより

平成 26 年 6 月 20 日 NO.4

## 学校を代表して

## 頑張りました

### 八代市民体育祭陸上競技大会

六月一日(日) 県南運動公園陸上競技場で、市民体育祭が行われ、八代小学校代表として六年生の子もたち十名が参加しました。五月から、六年生の担任や体育担当・陸上担当の先生方と毎朝練習を重ねて来ました。

大会直前に修学旅行と重なるという悪条件もありましたが、リレーの優勝を含め素晴らしい成績を収めました。おめでとう。

### 子ども自転車八代地区大会

六月七日(土) 八代市総合体育館において、八代地区の子ども自転車大会が開かれ、他の小学校は六年生代表が出場する中、本校は五年生の女子が出場をしました。

地域の交通指導員の先生と五年生の担任の先生と一緒に、毎日、朝と昼休みに練習を重ねました。入賞はできませんでしたが、さすが八代小の高学年という頑張りを見せ、学校をリードする頼もしい五年生と六年生がいます。



## かけがえのない命

## 一人だけのものではありません

先日、全校朝会で、命の大切さについて話をしました。市の図書館で見つけた「いのちのまつり」又「チヌグスージ」という本をもとに話をしました。一人一人の子もたちには、親がおり、その親にも親がいます。ずっと遡っていくと、自分が生まれるために何人の人がいたと思うかを子どもたちに聞きました。五十人、千人、一万人、そして百万人といろいろな声が上がりました。御先祖様の数は正確には分かりませんが、その中の一人でも欠けていけば、今の自分は存在しません。不思議な、そして自分の命の大切さを実感できる話です。

また、併せて、小児がんで九歳の我が子をなくしたお母さんの手記を読みました。両親は、代わってやれるものならと祈られたに違いありません。全ての子どもが、健康で天命を全うできるとは限りません。だからこそ、辛いことがあっても、与えられた命を、最後の瞬間まで大切にすることを、子どもに教えていく責任があるのでしょうか。

## 八代校区の皆様、よろしくお願ひします。

学校だよりを日頃から子どもたちを見守っていただいている地域の皆様にも、第四号から回覧させていただきますことになりました。

子どもたちは、人との関わり合いの中で成長していきます。学校の友達、家族そして地域の方々、どの方々も、子どもたちにとっては欠かせない大切な人です。地域で生活している実感を持たせるために、子どもたちに、ひとこと、言葉をかけていただけると幸いです。

